

後輩へのメッセージ

京都の魅力を発掘し、訪日外国人向けの体験ツアーを作成・実施

次年度取り組むみなさんには、小さな範囲と大きな範囲の主に二つの視点を持っていただけたらと思います。小さな範囲の視点では、クラスのメンバー全員のことをよく知り、チームワークを大切にしたいです。チームワークはただみんなで協力というわけではなく、各々が個性や能力を発揮しながらお互いをカバーし合っていくことであり、難しいですが重要なことだと思います。大きな範囲の視点では、プロジェクトの先には、学外のお客様がいらっしゃることを常にイメージして欲しいです。授業という名目ですが、プロジェクトに取り組むことがみなさんの経験だけに留まらず、結果的に社会やそこに生きる人びとに影響を与えることを忘れないで欲しいです。みなさんそれぞれが楽しんでプロジェクトに取り組むことも、もちろん大切にしてくださいね！

留学生と創る！ 「伝統と革新・京着物文化読本」制作プロジェクト

このプロジェクトでは、1年間をかけて京都のきものをテーマにした留学生向けの日本語教材の作成を行いました。しかし、科目担当者は教材の作り方を教えてはくれません。教材の作り方や、掲載する内容、どのような構成にするかなど、本当に全て0から学生が考え、それを形にしていかなければなりません。

またこのプロジェクトでは本当に数多くの人々を巻き込んでいきます。教材作りを教えてくれる方の講義を聞いたり、京都のきもの関係者の方々のもとを自ら訪ね取材したり、留学生を授業に招待したりなど、計100名近くの人々と関わります。

そんな活動を通して、多くの人を巻き込む社交力やリーダーシップ、0から物を作り出す創造力、インプットした事を適切に表現もしくは再現するアウトプット能力など、多くのスキルを身につけることができます。

ラジオの魅力 —学生パーソナリティの現場から高齢者へ

今年度は新型コロナウイルスの影響により、イベントの開催や施設への訪問など、例年行われていたような活動が出来ない状況でした。授業が始まった当初は、何をすれば良いの…？という感じ。それでも「コロナ禍で人と直接会えないからこそ、高齢者の方を元気づけたい」という想いで、ラジオ番組を通してコミュニケーションを図ろうという方針を決めました。みんなのアイデアを集め、ただ放送するだけでなく積極的にアプローチしたことで、直接会えなくても何とか交流の場を作れたと思います。

次に取り組む皆さんにも、まだまだ秘められたラジオの魅力を見出しただきたいです。新しい生活様式が求められている今、ピンチをチャンスに変えて、目標達成のために様々な視点を持って邁進してください。

地域の共感をよぶ映像制作 ～まちづくり観光の視点から～

プロジェクト科目を通じ、様々なことを学びました。撮影方法やポスターのデザインなど、技術的なことはもちろんですが、何より、対外的な活動を学べたことが、貴重な成果です。

プロデューサーとして、商店街の振興組合様、店舗様、神社など、さまざまな立場の方に企画を説明し、協力をお願いしました。温かく応援して下さいたときには本当にうれしかったです。厳しい言葉をかけられたこともありましたが、それらは自分の行動を見直すきっかけになりました。人と関わっていく度に、成長を実感しました。

決して楽ではなく、時間もたくさんかけましたが、映像の視聴回数が増える度に、やりとげてよかったと感じました。大好きな仲間もできました。

貴重な経験がたくさんできるので、ぜひ受講してみてください。

地域課題解決に資する コミュニティカフェのデザイン

このプロジェクトでは、自分たちで課題を洗い出すところからスタートするので、課題の発見、課題解決に資する場のデザイン、イベントの企画、実施という一連の流れを経験することができます。チームで話し合いや準備を重ねる上で、他のプロジェクトメンバーから刺激を受けたり、チームの中で自分がどのような振る舞いができるのかに気づいたりする場面もあるかと思います。試行錯誤の中で、大いに失敗し、立ち止まることもあるかもしれませんが、自分たちの発想をそのまま活かしてデザインできるこの機会が、履修生にとって貴重なものとなることは間違いありません。理想のデザインを実際に形にできるこの機会を十分に利用してください。

「子育て×働く」のリアルを探求する キャリア教育プロジェクト

私たちはこのプロジェクト科目を通して、仕事と育児を両立している方たちの経験談を聞くことができました。そして自分らしいライフプランを描くことができると思えるようになり、前向きになれました。働くことと、育児についての知識を身に付けること、さらに様々なロールモデルを知ることによって、将来の選択肢を増やすことができるのではないかと思います。これからどうしたいのかを常に自分自身に問うことと、コロナによって私たちの生活が一変したことを踏まえて今までの当たり前に対して常に疑問を持つことが大切だということを教えていただき、非常に共感しました。そして、私たちの活動が自分の選択を信じ、前に進んでいく力になれば嬉しいです。

京都・伏見で酒ツーリズムのしくみをつくる

私がプロジェクト科目を一言で表すとしたら、“実習”です。特に昨年は、コロナウイルスによる緊急事態宣言の発令など不安定な一年であり、私たちのプロジェクトでもツアーの実施という“ゴール”自体が危ぶまれました。しかし、そのような状況で zoom 会議を重ねてツアーを成し遂げた経験は、「自分に何ができるのか」を考える大変重要な経験になりました。

オンライン講義を聞き流すだけの日々では勿体無い。時代の流れに流されるのではなく、自分たちの判断や発想でプロジェクトを運営する経験は、大変貴重です。多様なテーマのうち、少しでも興味を感じるプロジェクトに参加してみる。その勇気が一年間を大きく変えるはずです。先の見えない社会だからこそ、自分自身を試す“実習”に参加してみませんか。

老若コラボによる「現代の課題」ブックレット編集制作

私はこの授業を通して、年の離れた方とお話しする楽しさや、コミュニケーションを取ることの難しさ、一緒にものを作り上げる大変さを実感しました。これは、実際社会に出て働くときにも通ずることだと思います。大学という枠の中では、やはり年の近い人とのみコミュニケーションを取ることがどうしても多くなると思うので、このような授業を通して関われるのは、非常にいい経験になりました。また、大学の教授とここまで近い距離で接することができたのも、貴重な機会でした。

大学生活というわずか4年のうちで、どんな経験をするかは本当に人それぞれだと思います。ぜひ、今しかできないことへのチャンスを自ら掴んで欲しいと思います。